

Title	移民の分析-ブラジル人を対象として-
Sub Title	
Author	大森, 晶子(Oomori, Akiko) 青井, 倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2206号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2206

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	青井 研究会	学籍番号	80630173	氏名	大森 晶子
(論文題名)					
<h3>移民の分析</h3> <p>—ブラジル人を対象として—</p>					
(内容の要旨)					
<p>移民問題を、文献研究・地域調査・日系ブラジル人実業家へのヒアリングの3つの観点から調査した。特に、太田市関係者および日系ブラジル人実業家へのヒアリングからは生の声を聞き、各関係者の考えを明らかにすることができた。</p>					
<p>労働政策研究報告書2004『外国人労働者問題の現状把握と今後の対応に関する問題』によれば、日本の労働者政策の基本的な、姿勢は専門的・技術的な分野の外国人労働者については積極的に受け入れ、いわゆる単純労働者については原則受け入れないものである。日本で働く外国人労働者数は1990年に比べると安定的に推移している。近年、日系人を含めた外国人の中には、定住、永住化の流れも生じている。その結果、就労や社会保険、子弟の教育など、一時的な就労を目的とした従来の対応とは別に新たな対応を求められる。またFTA締結交渉で日本の介護労働者分野へ外国人労働者の受け入れ要望が出されるなど、新たな局面を迎えている。</p>					
<p>本論文では、日本における外国人労働者、特に総数の最も多い日系人等の直面している課題、またそれらに地域がどう対応しようとしているかを調査し、また、今後も外国人労働者数が拡大していくと思われる日本において、地域での共生を図るために、日系人等のこれまでの課題や成果の実績をどう生かしていく必要があるかを提示した。</p>					
<p>調査の視点としては、関東では群馬県大泉町がひとつの外国人集住地域であるとの認識に立つものの、地域にこだわらず、外国人労働者の比較分析、総括を行った。また、先行文献においても、経済学者、歴史学者と様々な視点から書かれた文献を研究した。</p>					
<p>調査の対象としては、就労を目的とする外国人に焦点を絞り、その中で最も総数の多い日系ブラジル人を対象とした。なお、製造現場の研修生および技能実習生や不法就労者についても様々な議論がなされているが、本論文の問題認識とは異なるものであることから、そのいずれも本論文の対象としていない。</p>					